

令和4年度 事業報告

(公財)ふるさと島根定住財団

I. 事業実績の総括

当財団は、県内就職の促進、U I ターンの支援に取り組むため、平成4年に設立された。
(平成23年4月に公益財団法人に移行)

以来、事業規模を拡大し、以下の三つの大きな柱を中心に、定住を促進する事業を展開している。

- 1：若年者の県内就職の促進
- 2：県外からのU I ターンの促進
- 3：活力と魅力ある地域づくりの促進

上記の取組みは、これまでも県の基本計画等に示されてきたところであるが、令和2年3月に策定された、県の最上位の行政計画である「島根創生計画」並びに「島根県雇用対策計画（令和2年3月策定）」及び「島根県県民いきいき活動促進基本方針（令和2年3月第3次改訂）」の施策に位置付けられているところであり、県の主管部局（地域振興部、商工労働部、環境生活部）と常に連携を図りながら、事業の執行にあたった。

上記の「島根創生計画」は、令和2年度から令和6年度の5年間を期間とし、各年度の成果指標の目標値が設定されている。当財団事業に関連する成果指標の目標設定もあり、その達成を意識しながら事業の実施に努め、下表のとおりの実績となった。

成果指標	R4年度目標	R4年度実績
産業体験事業終了時定着者数	75.0人	98.0人
U I ターン希望者のための無料職業紹介による年間就職決定者数	331.0人	295.0人
ふるさと定住・雇用情報コーナーの相談実人数（東京・広島・大阪計）	820.0人	820.0人
ふるさと回帰支援センターでの相談実人数	150.0人	140.0人
しまこトアカデミー受講者数（累計）	304.0人	300.0人
移住支援東京拠点等での関係人口拡大セミナー累計受講者数（東京・大阪累計）	1,290.0人	1,463.0人
関係人口マッチングサイトによる県内地域へのマッチング件数（累計）	30.0件	64.0件

新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、集客型のイベント・事業においては、対面式とオンライン方式を使い分け、あるいは組み合わせながら、より効果的な事業の実施に努めた。

以下、3つの柱の主だった事業の実績、課題等について報告する。

II. 若年者の県内就職の促進

(単位：千円)

	現計予算額	決算額
県補助事業	92,452	80,787
自主事業	7,200	7,106

1. キャリア相談事業 988千円

(1) 事業の概要

学生や若年者(45歳未満)を対象に、就職についての“悩み”や“分からないこと”を専門キャリア・アドバイザーが話をじっくり聴き、アドバイスやサポートを行う。

(2) 事業の実績

- ・対面、WEB、電話による就職活動についての悩みやわからないことの相談、応募書類の添削や面接練習の対応、就活力向上プログラム「ステップ9」の実施

【ジョブカフェ来所者・相談実績】

(単位：人)

区分	H30	R1	R2	R3	R4
来所者(延人数)	7,642	7,253	4,934	4,544	4,472
松江センター	5,828	5,450	3,432	3,112	3,119
浜田ブランチ	1,814	1,803	1,502	1,432	1,353
個別キャリア相談	4,458	4,625	3,149	2,976	3,033
松江センター (うちWEB等)	3,223	3,270	1,885 (1,013)	1,783 (767)	1,928 (576)
浜田ブランチ (うちWEB等)	1,235	1,355	1,264 (899)	1,193 (804)	1,105 (511)
学 生	3,144 (70.5%)	3,111 (67.3%)	2,505 (79.5%)	2,294 (77.5%)	2,333 (76.9%)
既 卒	1,314 (29.5%)	1,514 (32.7%)	644 (20.5%)	667 (22.5%)	700 (23.1%)

- ・就職活動での様々な場面を想定したテーマ別の就職応援ミニセミナーの実施
- ・県内大学と連携した相談対応をするため、島根大学と県立大学松江キャンパスでの出張相談や県立大学浜田キャンパスでのセミナーの実施

➡県内企業を就職希望先の選択肢の1つとして検討してもらえるようにするため、業界研究の内容も踏まえながら、県内企業の情報を相談者に丁寧に提供・発信することが必要

2. 学生に向けた情報発信 12,702千円

(1) 事業の概要

就職する方を含め県内高校等を卒業する学生の「しまね登録」への登録を推進し、登録者へ卒業後も島根と「つながる」情報を届ける。

(2) 事業の実績

- ・就活情報サイト「ジョブカフェしまね」で県内企業の企業情報・求人情報の提供、ジョブカフェしまねで実施するイベントや助成金等の情報を発信

- ・若者の情報収集の手段がSNS等に移行している状況を踏まえて開始した「しまね登録」について、県内各高校と県教育委員会、県雇用政策課と連携し登録を推進するとともに、LINEアプリを通じて学年等に応じた就活イベントや助成金等の情報をタイムリーに配信

【しまね登録の状況】 (単位：人)

区 分	R3	R4
LINEアカウント登録	3,767	3,313
詳細情報登録	1,680	1,567

【参考：しまね学生登録の状況】

5,439人 (R5.4.1時点)

- ➡高校卒業時の「しまね登録」の登録を引き続き強力に推進するとともに、属性に応じた情報提供を行うために必要な詳細情報の登録を、しまね登録キャンペーン等を活用し推進することが必要

3. 就職活動イベントの実施 34,463千円

(1) 事業の概要

最終学年前年度後半以降の学生等に対して、県内企業の情報提供と出会いの場を創出するために、説明会等を開催する。

(2) 事業の実績

- ・対面形式でのイベントを実施

【イベントの開催状況】



(単位：人・社)

イベント名	開催日	場所	参加者数	参加企業数
年末しまねジャンボ企業博	12/27(火)	くにびきメッセ	266	170
しまね企業ガイダンス	3/1(水)	松江市総合体育館	258	240

【しまね企業ガイダンス（3月）オプション企画の開催状況】 (単位：人・社)

企画名	開催日	内容	参加者数	参加企業数
しまねスカウト型就活～自己プレゼンで企業にアピール～	2/25(土)	企業採用担当者等が学生ブースを訪問し、学生が企業に自己PRを行う逆求人型のイベント	25	25

- ・オンラインで県内企業情報を掲載

【実施状況】

県内企業を紹介する動画「ジョブチャンネル」を公開

参加企業数：190社 視聴回数：33,702回

- ➡就職活動の早期化やコロナ禍等の影響により参加学生が低調であったため、就職活動のスケジュールやコロナ禍を経て行動制限が緩和された状況及び学生の情報収集の手段等を勘案しながらイベントを実施することが必要

4. しまね学生インターンシップ関連事業 8,421千円

(1) 事業の概要

最終学年前年度までの学生を対象にインターンシップ参加の申込を受け付け、インターンシップ申込企業とのマッチング等、就業体験の総合調整を行う。



(2) 事業の実績

- 夏期（R4年8月～9月末）と春期（R5年2月～3月末）にインターンシップを対面・オンライン・ハイブリッド形式のいずれかの方法により実施

【インターンシップの実績】

項目	R2			R3			R4		
	夏期	春期	計	夏期	春期	計	夏期	春期	計
申込企業数(社)	76	107	183	112	96	208	124	111	235
マッチング企業数(社)	42	52	94	76	54	130	80	46	126
申込学生数(人)	133	158	291	369	127	496	387	97	484
マッチング件数(件)	122	159	281	352	117	469	396	104	500
参加者数(延数)	116	152	268	315	110	425	362	101	463

- インターンシップ申込前に、インターンシップ参加に興味のある学生が申込企業の担当者からプログラム紹介等を聞くオンライン交流会を開催

(単位：人・社)

開催日	参加者数	参加企業数
6/4(土)	14	8
6/10(金)	22	9
6/11(土)	15	9
11/26(土)	18	12
12/2(土)	26	12



- 1 Day 仕事体験（いわゆる1 Day インターンシップ）を実施する県内企業の情報をジョブカフェしまねサイトに掲載し、学生との接点の場を提供

【1 Day 仕事体験の実績】

項目	R2	R3	R4
企業数(社)	111	119	144
参加学生数(延人数)	277	321	191

- ➡就職希望先の選択肢として県内企業を検討してもらうためには、インターンシップ等を通じて県内の企業や仕事の魅力を知ってもらうことが重要であるため、三省合意の改正の内容に対応したインターンシップ等を準備し、低学年次からの参加を促進していくことが必要

5. 企業向け採用力強化セミナー 769千円

(1) 事業の概要

県内企業の経営者、採用担当者等を対象に、インターンシッププログラムの改善等採用力向上のための効果的な取組について学ぶセミナーを実施する。

(2) 事業の実績

- ・インターンシッププログラム強化セミナー（オンライン）を開催

【セミナー開催実績】

(単位：社)

開催日	内容	参加社数
7/8 (金)	講義①：学生の現状やインターンシップの参加を促す広報の仕方 講義②：学生の印象に残るインターンシッププログラム	64
1/19(木)	講義①：学生のインターンシップをめぐる現状と今後の就職活動の見通し 講義②：フィードバックを組み込んだインターンシップの手法とプログラム構築	40

➡インターンシップ等の受入については企業ごとにと組内容に差があるため、レベルに応じた内容のセミナーを実施することで、受け入れを始めようとする企業や更なる質の向上を図ろうとする企業の取組を引き続き支援することが必要

6. しまね就職活動応援助成 12,424 千円

(1) 事業の概要

県内企業の理解促進と県内就職の増加を図るため、県内企業に就職活動を行う学生やしまね学生インターンシップに参加する学生に対し、交通費、宿泊費を助成する。

※R4年度から、民間によるしまね未来サポート事業と連携し、補助率を10/10 (R3年度までは1/2) に引き上げて助成

(2) 事業の実績

- ・しまね学生インターンシップに参加する学生に対し、交通費・宿泊費の10/10（上限60千円）の経費と新型コロナウイルス感染症検査費用の全額を助成

【インターンシップに関する助成実績】

(単位：件、円)

項目		H30	R1	R2	R3	R4
しまね学生インターンシップ助成金	助成件数	45	27	27	15	30
	助成金額	814,533	648,100	344,100	219,100	1,369,252
新型コロナウイルス感染症検査費用助成	助成件数				49	12
	助成金額				826,990	202,597

- ・県内企業に就職活動をする学生等に対し、交通費・宿泊費の10/10（上限60千円）の経費を助成。企業での対面面接等が増加したことや補助率が10/10になったことにより、件数・助成金額も増加

【就職活動に関する助成実績】

(単位：件、円)

項目		R1	R2	R3	R4
しまね就職活動助成金	助成件数	42	89	205	410
	助成金額	489,400	721,700	1,546,600	7,496,414

➡県内企業の就職活動やインターンシップ等を増やすため、引き続き学生や企業等へ助成金の周知を行い、活用を促進することが必要

Ⅲ. 県外からのU I ターンの促進

(単位：千円)

	現計予算額	決算額
県補助事業	412,446	371,975
自主事業	2,800	2,594

1. 無料職業紹介事業 6,582 千円

(1) 事業の概要

U I ターン希望者が島根県内で円滑に就職できるようにきめ細やかな就業相談をしながら、求人情報をはじめとする定住支援情報を提供する。

(2) 事業の実績

- ・しまね移住情報ポータルサイト「くらしまねっと」を活用し、U I ターン希望者と県内企業が直接WEB上でのやりとりを実施
- ・職業紹介担当を配置し、U I ターン希望者と県内企業の求人のマッチングの実施と、移住希望の地域の生活環境や移住支援情報を提供

【無料職業紹介事業の実績】

(単位：人)

区分／年度	R1	R2	R3	R4
求職登録者	2,051 人	2,119 人	2,131 人	2,496 人
(新規登録者)	644 人	736 人	618 人	930 人
(U ターン)	232 人	231 人	202 人	230 人
(I ターン)	412 人	505 人	416 人	700 人
(I の内関係有)	107 人	106 人	98 人	185 人
各年度就職決定者	316 人	282 人	283 人	295 人

- ・求職登録者が、その後の相談に繋がるようにすることが重要であり、登録内容に応じた案内メール送信等の対応を実施

➡新規登録者の増加に伴い、対応件数も増加傾向にあるため、取りこぼしがないように市町村や関係機関等との密な連携が必要

➡島根に移住後のフォローアップも重要であり、移住者同士の交流の場の設定や要望に応じ個別の支援を実施していくことが必要

2. U I ターンしまね産業体験事業 155,140 千円

(1) 事業の概要

県外からのU I ターン希望者を誘導するため、3 ヶ月以上1 年以内の期間、農林漁業等の産業体験を行う場合に、滞在に要する経費を一部助成する。

(2) 事業の実績

- ・新型コロナの影響も追い風となり、第一次産業への関心が高まっていることもあり、認定者数は前年度に比べ4 人増で、コロナ後年々増加傾向。

【体験者数】

(単位：人)

認定年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	H8～累計
認定者数	90	88	83	93	103	107	2,313
体験終了者数	90	88	83	93	100	37	2,240

- ・認定者の内訳：農業 59 人、畜産 8 人、林業 4 人、漁業 25 人、その他 11 人

【終了時定着率】

(単位：人)

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
体験終了者数	98	91	111
終了時定着者数	83	77	98
終了時定着者率(%)	84.7	84.6	88.3

- ・終了時定着者が昨年比 21 人の増、定着者率も 3.7%の増と、高い水準で推移。

- ➡認定者が体験終了時に定着することが重要であり、体験者へのフォローアップの実施や体験者同士の仲間づくりの場を設定していくことが必要
- ➡申請件数の増加に伴い、新規受入先の確保が課題となっており、過去の受入先への調査や市町村との協力により新規受入先確保の取組みを実施することが必要

3. UI ターン情報発信事業 37,064 千円

(1) 事業の概要

WEBサイト、SNS、情報誌等を通じてUI ターン情報を発信する。

(2) 事業の実績

- ・移住女子をターゲットに据え、インスタグラムの開設や島根に移住してきた女性のリアルな島根の暮らしの様子をリレーブログ形式で発信
 - ・くらしまねっとに「住まい」の情報を拡充し、空き家改修の事例や住まい探しのポイントなどを掲載
 - ・「島根で働く人の想い」、「職場の雰囲気」を感じられるよう『心で読む求人票』特設サイトを拡充
 - ・UI ターン希望者に対する「しまね登録」への新規登録キャンペーンを実施
- ➡島根の暮らしの良いところばかりの情報発信に偏ることなく、よりリアリティが感じられるよう、デメリットも含めた情報提供が必要
 - ➡UターンとIターンでは求める情報等が異なるため、意図的にそれぞれの属性にターゲットを絞りアプローチしていくことが必要

4. U I ターンイベント等の開催 49,267 千円

(1) 事業の概要

島根県の移住相談や情報提供を目的として、Uターン I ターンイベントを開催する。

(2) 事業の実績

- ・3年ぶりの対面イベントを東京・大阪にて開催。コロナの影響を鑑み、規模を縮小し、財団による総合相談ブースと市町村相談ブースの機能に絞っての実施

日付	会場	財団	市町村	来場数
9/17(土)	大阪	51組(71人)	158組(197人)	92組(125人)
10/29(土)	東京	78組(115人)	182組(233人)	142組(202人)
合計		129組 186人	340組 430人	234組 327人

- ・島根オリジナルのバーチャル会場を活用し、幅広いニーズに応えるオンラインイベント「しまね移住ワンダーランド」を開催。(単位：人)

年度	R2	R3	R4
開催日	10/31, 11/28	10/30, 31	12/3
イベント来場者数	1,123	1,038	2,346
入場チケット発行数	560	561	450
市町村等対応数	271	220	168
財団対応数	77	93	50



- ・現場からの中継や事前収録などを駆使し、島根暮らしを体感してもらう「しまね移住体感オンラインツアー」をテーマごとに開催 (単位：人)

日付	テーマ	参加者数	相談組数
6/11(土)	休日	100	11
7/24(日)	お金	90	11
11/19(土)	住まい	87	14
1/22(日)	移住のネック	114	17
合計		391	53

- ➡オンラインイベントは、参加のし易さのメリットがある反面、個別相談まで繋げる率が低い等の課題があるため、対面イベントとのバランスを考えながら組み込んでいくことが必要
- ➡オンラインにしても対面にしても、全国の自治体による移住イベントが乱立しているため、新規顧客をいかに確保していくかの工夫が必要

5. Uターン促進に向けた戦略的イベント 9,486千円 【新規】

(1) 事業の概要

Uターン者に特化した取り組みを行うことによりUターンの促進を図る。



(2) 事業の実績

- ・Uターン呼びかけ広報事業として「しまねサププロジェクト」を実施。島根県内在住の若者から県外在住の島根県出身の若者に対して、Uターンの呼びかけを協力してもらった

県外の友達	Uターン情報に触れる機会がなかった人	Uターンしたい人
100人	76%	57%

- ・Uターン積極採用企業とのマッチングイベントとして「しまねUターン転職大作戦」を実施

開催期間	企業数	Uターン求職者数	就職決定数(R5.4末時点)
2/1~2/28	96社	28人	6人

➡ Uターン者の中で「いつか島根に」という気持ちのある方としっかり繋がり、島根にUターンするきっかけとなるような工夫をしていくことが必要

6. 「しまね移住支援サテライト東京」の活動 42,862千円

(1) 事業の概要

首都圏における移住情報の提供や相談対応、島根への興味、意識啓発のセミナーの開催、交流機会の提供により、Uターン者の増加、関係人口の創出・拡大に取り組む。

(2) 事業の実績

- ・日比谷しまね館及びふるさと回帰支援センターに移住支援コーディネーターを配置し、移住希望者の様々な相談に対応
- ・対面イベントへの出展対応や回帰センターでの移住セミナー実施等により、新規の相談件数が増加。移住確度の高い相談者を丁寧に島根に繋げられるよう、個々の希望に沿ってきめ細やかな対応を行う。

【日比谷しまね館 しまね定住・雇用情報コーナー 相談実績】 (単位: 件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	40	43	29	26	36	33	54	59	50	82	54	38	544
R3	26	21	35	33	29	32	48	35	43	36	49	22	409
R2	16	10	58	72	68	69	55	60	36	37	34	32	547
R1	25	20	11	26	20	42	30	37	28	45	52	37	373

【ふるさと回帰支援センター 島根県移住相談窓口 相談実績】 (単位: 件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	6	10	12	8	10	37	10	8	5	9	19	25	166
R3	13	25	23	15	10	19	42	19	25	23	27	21	262
R2	1	1	16	26	17	27	8	24	6	9	4	14	153

- ・島根移住への関心を高め、新規相談に繋げるため、ふるさと回帰支援センター等で移住セミナーを開催

日付	イベント名	参加者 (人)	日付	イベント名	参加者 (人)
5/21	しまね暮らし入門セミナー	13	12/17	地方暮らしのアレやコレ④	5
7/8	地方暮らしのアレやコレ①	6	1/8	とっとり・しまねコラボセミナー	40
9/4	地方暮らしのアレやコレ②	12	3/4	地方暮らしのアレやコレ⑤	15
10/6	地方暮らしのアレやコレ③	7			
参加者合計					98

- ・島根への興味喚起、関心層の掘り起こしのため、首都圏在住者向けに移住・関係人口に関するセミナーを開催

【セミナー開催実績】

(単位：人)

日付	イベント名	会場	参加者
7/9	トーク・交流イベント (会場16名、配信4名)	シブニラウンジ	20
7/29	島根の日常①	オンライン	17
10/1	現地ツアー説明会	オンライン	13
10/8	島根の日常②	神田	9
10/22・23	専大SLDP工芸イベント	日比谷しまね館	50
11/12	ツアー前セミナー①	HAPON新宿	5
11/19~21	現地ツアー①西部	西部/津和野	
11/26	ツアー前セミナー②	HAPON新宿	5
11/29	島根の日常③	茅場町	9
11/30	ルーツしまねイベント	新宿	6
12/10~12	現地ツアー②東部	東部/雲南・奥出雲	(5)
12/24	ツアー後セミナー	HAPON新宿	(10)
2/10	島根の日常④	オンライン	26
2/18	島根交流イベント	HAPON新宿	21
3/3	島根の日常⑤	オンライン	20
3/11	島根ハンドメイドWS	秋葉原	30
合計			231

- ・企業版関係人口の創出のため、地域課題解決に向け県内3市町（安来市、川本町、奥出雲町）と都市部企業とのマッチングを調整
 - ・首都圏における相談窓口の認知度の向上、新規相談を増やすため、相談窓口広報のYoutube 広告を配信
- ➡引き続き、首都圏における相談窓口である「しまね移住支援サテライト東京」や「ふるさと回帰支援センター島根県ブース」の認知度向上のため、取り組みの強化が必要

IV. 活力と魅力ある地域づくりの促進

(単位：千円)

	現計予算額	決算額
県補助事業	47,886	44,987
NPO 中間組織委託事業	3,000	2,416

1. 関係人口拡大事業 11,751 千円

(1) 事業の概要

地域活性化への貢献や将来の移住に繋げるため、関係人口と地域づくりの担い手として関係人口を受け入れたい県内地域の掘り起こし及びマッチングを行う。



(2) 事業の実績

- 関係人口と、地域づくりの担い手として関係人口を受け入れたい県内地域とのマッチングを行うポータルサイト「しまっち!」を運営

【「しまっち!」掲載実績】

(単位：件)

年度	R 3	R 4	計
プログラム	28	67	95
コミュニティ	4	7	11
活動レポート	20	54	74
お知らせ	11	38	49
合計	63	166	229

※R 3の実績は、10月25日以降

- 関係人口と地域団体のマッチングを促進するため、関係人口マッチングイベントをオンラインで次のとおり開催
マッチングイベント

開催日	地域団体	参加数
5/26	・ 里山照らし隊 (雲南市)	9
6/16	・ 奥出雲ひと休みの森プロジェクト(奥出雲町) ・ キャンドルナイト羽根海岸実行委員会(大田市)	23
7/26	・ ねねねプロジェクト (出雲市)	18
10/8	・ ino. ti ~ 中山間地域の未来へ~ (出雲市) ※現地対面	18
1/26	・ NPO法人石西防災研究所 (益田市) ・ 都野津街並みの会 (江津市)	16
3/8	・ NPO法人江の川鐵道 (邑南町) ・ たかはらんど (邑南町) ・ パトランJAPANしまね ・ 隠岐の島町	14

- “関係人口と広がる地域づくり” をテーマに『しまね地域づくりフォーラム』を開催

	参加数
1部のみ参加(YoutubeLive)	74
1部2部両方参加(ZOOM)	32
合計	106

- ・64件の関係人口と地域団体とのマッチングを調整
- ・関係人口の活用を検討する地域団体の要請に応じ、アドバイザー派遣を8件実施
- ・関係人口の受入事業を行う地域団体の事業実施に要する経費や受入促進に必要な経費（関係人口が県内活動地域を訪問する際の旅費交通費の一部）を助成

【助成実績】

関係人口助成金実績

団体名（所在地）	事業内容	活動支援助成額（千円）	受入促進助成額（千円）	受入人数（人）
里山照らし隊（雲南市）	住民と多様な人材（関係人口）が保持するチカラ・知恵・技術などそれぞれの能力によって当地域に潜在する資力を引き出し、これを糧として地域と社会との関係性を強化することで地域の持続性を高める。	97	22	35
田んぼで金魚（出雲市）	多伎町の休耕田で金魚を養殖し、金魚すくい屋台を県内外各地で出店。出店先の地域の方や関係人口として関わってくれる方々と協力して出店することで出店先の地域の魅力に触れたり、出雲市多伎町の魅力を伝えたりするなどして、継続的な地域間交流のきっかけづくりになることを目指す。	15	0	3
はづみ縁日実行委員会（江津市）	地域住民と関係人口が一体となって夏祭りを開催し、子供たちによる屋台出店を通じて、子供たちへの挑戦の場を提供し、地域への愛着を深める。屋台出店準備の過程で、大人との関わりの場を創出し、継続的な関係人口の定着・増加を図る。	100	14	54
NP0法人江の川鐵道（邑南町）	新たに手漕ぎトロッコの修繕ワークや車両増に伴う乗員数増に対して新たに関係人口を募る。そうした中で関係人口と地域住民との交流を生み、地域に活気を出す。	83	82	13
Izumo廃校文化祭実行委員会（出雲市）	旧出雲市立光中学校の体育館を活用し大人たちの文化祭を開催するため、草刈り・清掃活動や当日の運営スタッフをしてくれる関係人口を募集する。	100	0	15
ねねね（出雲市）	メンバー全員の出身地である島根で空き家の改修を行い、喫茶を併設したアールスペースをつくるための活動。様々なアーティスト作品を展示・販売できる空間にし文化の発信地とする。	99	95	20
NP0法人ともに（奥出雲町）	奥出雲町みざわ地区の未来を灯す『R4みざわまちあかり』の運営を行い、誰もが誇りをもって住める街にしていく。当日の様子をYoutubeで配信したり準備から片付けまで一緒に行ってくれるひとを募集する。	100	36	5
多伎いちじく盛り上げ隊（出雲市）	いちじく収穫のお手伝いを通じて多伎いちじくへの愛着や思いを醸成し、消費者と農家の顔の見える関係性を築いて行く。それにより多伎町へ訪れる人が増え、町全体の活性化の起爆剤になればと考えている。	54	75	35
都野津街並みの会（江津市）	空き家の利活用を図り、地域内外の交流を図るため、空き家のリノベを関係人口とともにワークショップにより実施する。	100	67	26
NP0法人結のひろば（江津市）	プレーパークの整備をワークショップ形式で実施するとともに、認知度アップ・活用促進を図るため、イベントを実施する。居場所づくりに併せ、地域住民との交流を目指す。	100	0	9
ino. ti～中山間地域の未来へ～（出雲市）	出雲市伊野地区において子どもを主役にしたまちづくりの挑戦。お母さんたちで実行委員会を組織し、周辺地区などの関係人口と共に「子どもマーケット」を実施する。	64	0	22
（一社）津和野まちとぶんか創造センター（津和野町）	津和野町の地域の暮らしや働くことにフォーカスし、働き手の姿から直接学ぶ「津和野カレッジ」のプログラム開発を目指す。	99	88	7
えくぼ（出雲市）	コミュニティセンターで依頼されるサロンで人形劇上演をする際に手伝ってくれる人を募集。近隣の県立大学の学生に声をかけながらサポーターを募る。活動チラシやカードを作成しPRする。	18	0	2
合計		1,029	479	237

- ・首都圏の大学生の関係人口創出を図るため、R3年度に島根県と連携協定を締結する専修大学に寄附講座を設置。156名の学生が履修し、全15回の講座を新型コロナの影響によりオンラインで実施

➡関係人口の掘り起こしを引き続き行うとともに、地域でのマッチングの成功事例の積み上げと横展開を図っていく

2. しまコトアカデミー 15,477 千円

(1) 事業の概要

島根県の地域づくりに関心を持つ方を対象に、島根県への関心層の拡大及び地域貢献を目指す方の育成、そうした人材のネットワーク化を図るための連続講座を実施する。

(2) 事業の実績

- ・新型コロナの影響により完全オンラインで、東京・関西・広島・島根の4講座を全6回実施。

【受講者数】

(単位：人)

講座名	東京講座	関西講座	広島講座	島根講座	合計
参加人数	12	9	8	12	41

【講座内容】

	日程	内容
第1回	8/27	島根・しまコトを学ぶ（関係づくり、思いの棚おろし）
第2回	9/11	私と島根がつながる（私と島根の接点を探す）
第3回	10/8～10	私と島根がつながる（私のかかわりしろを見つける）※現地インターンシップ
第4回	11/5	学びのジブンゴト化（学びとつながりを編集する）
第5回	11/26	学びのジブンゴト化（マイプロジェクトを見つける）
第6回	12/11	最終発表会

- ・受講生としまコトOBOGが交流する「しまコトナイト」を88名の参加のもと2月に開催

➡島根との繋がりを継続していくために、受講後の活動の選択肢の継続的な提供や、OBOGとの情報共有の場の提供強化を検討

3. しまね田舎ツーリズムの推進 4,104 千円

(1) 事業の概要

「食」「体験」「宿泊」が連携した農家民泊・漁家民泊の普及拡大に向け、しまね田舎ツーリズムの利用促進の広報や研修等を行い実践者の支援を行う。

(2) 事業の実績

- ・実践者等に対してコーディネーター等による助言・アドバイス等を実施

【田舎ツーリズム実践者数】

(単位：件)

	H30年度末	R1年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末
登録施設数	96	106	135	147	163

- ・実践者の研修会やリスクマネジメント研修、意見交換会を実施

【研修会等開催実績】

県内研修会			リスクマネジメント研修		
実施日	テーマ・内容	参加者(人)	実施日	テーマ・内容	参加者(人)
6/23	しまね田舎ツーリズム制度説明会	25	6/7	新型コロナウイルス対策 *会場参加以外の90名は YouTube視聴	8
9/22	第1回県内研修会 楽しくはじめるツーリズムの宿	15	6/7		6
12/7	しまね田舎ツーリズムオンライン忘年会	11	6/9		24
1/18	第2回県内研修会 田舎体験から繋がる地域づくり	14	6/10		11
3/2-3 、16-17	ハッとホッとコラボ会	28	6/10		4
			6/13		10
			6/14		0
			6/15		6
			6/16		2

- ・移住検討中の方の受け入れに積極的な民泊施設を特集した冊子の作成、「くらしまねっと」登録者へ広報の実施

➡引き続き関係人口や移住希望者を受け入れるプログラムづくりを強化するとともに、対象者を特化した体験キャンペーン等を実施し、より多くの体験者の獲得と体験者のニーズ等を把握することが必要

4. 社会貢献活動事業 2,550千円

(1) 事業の概要

地域の課題解決に向け、自主的・自発的に取り組む団体の活動(いわゆるNPO活動)がより活性化し、より良い地域づくりが展開できるための組織・人材育成支援などを行う。

(2) 事業の実績

- ・NPO法人の定款のモデルを県・行政書士等とともに改訂・公開
- ・NPOの組織力を強化するためのマネジメント、資金調達力を強化するための講座等、基盤強化研修をオンラインで以下のとおり実施

実施日	テーマ・内容	参加者(人)
4/21	第1回助成制度オンライン合同説明会	25
6/7	ファンドレイジングセミナー前期①	13
7/12	ファンドレイジングセミナー前期②	10
10/12	NPOマネジメント研修<理事会編>	16
10/26	NPOマネジメント研修<監査編>	18
12/13	ファンドレイジングセミナー後期①	16
1/24	ファンドレイジングセミナー後期②	13

- ・県内のNPO情報やボランティア等について、広く情報発信する県民活動応援サイト「島根いきいき広場」を運営し、NPO活動に関する情報発信をサポート

【県内NPO法人数の推移】

(単位：件)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
認証件数	5	17	8	9	11	11
解散件数	8	11	8	10	15	2
所轄庁変更	1	0	0	0	▲ 2	0
法人総数	280	286	286	285	279	288

- ・休眠預金の活用に向け、資金分配団体として中国5県でコンソーシアムを組み、島根県内の団体にも対応できるよう体制を整え、申請を希望する団体を支援
- ➡NPO活動が持続的に実施されることが重要であり、組織基盤強化、財政基盤強化に向けたサポートが引き続き必要